

空の先駆者をしのぶ

延岡

銅像前で後藤勇吉慰霊祭

延岡市出身で「空の先駆者」とたたえられる後藤勇吉の慰霊祭は28日、銅像のある同市東浜砂町や母校の延岡小学校の児童ら約100人が出席して、遺徳をしのんだ。



後藤勇吉像に弔歌をよむ延岡小4年の児童ら(28日、延岡市の妙田緑地公園)

後藤勇吉は2月29日が命日で今年で92回忌になる。慰霊祭では全員で黙とうをささげた後、延岡小(勇吉在籍当時は延岡尋常高等小学校)の4年生71人が「故・後藤飛行士弔歌」を合唱した。

上野会長は「勇吉が思い描いた夢ややさしさを未来ある子どもたちに伝えていくことが一つの使命。これからも活動を続けていきたい」とあいさつした。

後藤勇吉は明治29(1896)年、現在の南町に生まれた。旧制延岡中学校を卒業後に上京し、大正10(1921)年に日本初の一等操縦士、一等飛行士の免許を取得した。日本初の旅客輸送や郵便輸送に成功するなど

旅客輸送空路を開拓。日本一周にも成功した。昭和2(1927)年に日本初の生鮮農産物の空輸を実現したが、同3(1928)年2月29日、長距離飛行の訓練中に佐賀県で墜落し、33歳の若さで命を落とした。

2019.3.1

里神楽&春祈禱祭

延岡市北川町

16日 川坂母子健康センター広場

延岡市北川町の「かわざか花物語2019第46回里神楽&第6回春祈禱(ぎとう)祭」が16日、同町長井の川坂母子健康センター広場である。時間は午前10時30分から午後4時45分。雨天時は隣接する同センター内で開催する。同実行委員会安藤重徳実行委員長(主催)市元気のいい三北地域づくり支援事業。

菜の花が咲き誇る早春に、豊作と地域の安寧を願う「春祈禱」、発足46周年を迎えた川坂神楽の披露を合わせた恒例行事。当日は神事、開会行事で幕を開ける。午前11時10分ごろから川坂神楽保存会(廣瀬和男会長)による神楽披露があり、小学生を含むメンバーが「鎮守」「幣の手舞」「三番荒神」から計12番を舞う。午後1時30分から春祈禱式典と鏡開き、地域住

民らによる舞踊・ダンス・カラオケ大会へと続く。同3時からは、はせ音楽事務所カラオケ大会、日向市出身の歌手おだや加奈子さんのコンサートも。また会場では、計3回の餅まき、宝探し(幼児・小学低学年対象)、地元農産物がもらえる川坂ウォーキングクイズ(事前申し込み必要)が行われるほか、川坂産小麦を使ったうどんをはじめ、各種出店が軒を連ねる。



昨年行われた「かわざか花物語2018」

同実行委員会は「多様な催しは幅広い年代の方に楽しんでもらえたいと思います。多くの方に川坂の春を楽しんでもらえれば」と来場を呼び掛けている。

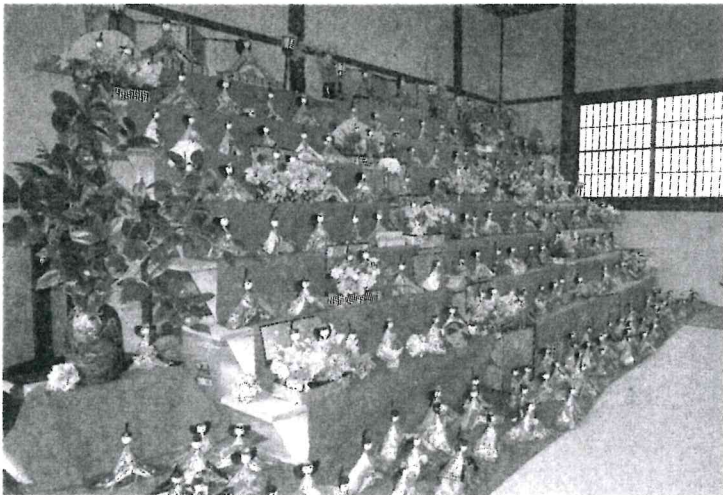
問い合わせは同実行委員会(☎延岡46・3247、延岡46・3209)。

城下町佐伯へ行くこう

3月10日まで ひなめぐり

城下町の面影が残る佐伯市の武家屋敷通りの5施設にさまざまひな人形を展示、それを巡回して楽しむ「ひなめぐり」が行われている。各施設とも、飾られたたくさんひな人形で室内は色鮮やか。多くの人が連日訪れて人気となっている。3月10日まで。

佐伯ひなめぐりの会場の一つとなっている城下町観光交流館。部屋いっぱいひな人形で華やいだ雰囲気となっている。



展示施設は、城下町観光交流館、茶室汲心亭(ぎゅうしんてい)、旧片岡邸、国木田独歩館、佐伯市歴史資料館の5施設。いずれも佐伯城のあった城山の東側にある「歴史と文学のみち」沿い。城下町の雰囲気を残したたずまい。散策を楽しむ人も多い。期間中は、花びなづくりなどワークショップ、イベントもいろいろ。旧片岡邸では期間限定で喫茶を併設。国木田独歩館と歴史資料館は入館料が必要。5施設のうち3施設は月曜休館。問い合わせ先は、同市観光案内所(☎0972・23・3400)。

2019.3.1